

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491400067		
法人名	社会福祉法人 安岐の郷		
事業所名	さわやかクラブむさし苑		
所在地	大分県国東市武蔵町糸原2368-2		
自己評価作成日	令和元年9月28日	評価結果市町村受理日	令和2年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和元年10月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である【サービスの提供にあたり「むさし苑があってよかった」と言っていたら地域の愛され、地域に信頼され、地域に開かれた高齢者の福祉のパイオニアを目指します】を職員一同が肝に銘じて開設から6年目に入った。行事参加や買い物、地域の方、子ども達を通し地域に溶け込んだご利用者の生活が出来るよう支援している。ふるさと訪問を継続し馴染みの場所、人間関係、季節や食べ物を大切にしたいその人らしい暮らしをして頂けるよう支援を行っている。外出支援ではご利用者の人気であるお芝居、季節に応じたドライブ、そして今年度は全員で日帰り旅行も計画している。そのためにご自分で出来ることはして頂くことをはじめ、健康維持や体力作りにも個々に応じた運動の工夫もしながら、やりがい、満足や楽しみがある、一瞬一瞬の笑顔を引き出せるよう努めている。

- ・少し高台に位置し自然豊かな四季を感じる環境です。空港に近く、遠方にいる家族の人にとって面会するには交通の便が良い。
- ・法人には特別養護老人ホームがあり、医師看護師と連携し、最後まで安心して任せられる。
- ・食事は三食全て施設内で作り、調理の匂いが漂い落ち着いて過ごすことができる。
- ・各種研修が全職員対象に行われ、意識が高く利用者本位の支援に心掛けている。
- ・地域との交流が多く、地域に認められた施設である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の全体朝礼で、法人の理念を唱和し、共有している。GHの理念である「私たちはご利用者の一瞬一瞬の輝きを見出すために地域と共に歩んでいきます」をGHの朝礼で唱和し、ご利用者の笑顔を引き出せるようなケアの実践に努めている。	理念は事務室に掲示しており、ワーカー日誌にも印刷されて職員は常に理念を意識している。又毎日朝礼で唱和し、地域との関係を大切にしていけるよう職員みんなで実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや行事に積極的に参加したり、地域の文化祭に作品を出品している。買い物支援も出来るだけ地域の店を利用している。また地域の民生委員の来苑もあり交流が図れている。施設の慰霊祭には地域の盆踊り保存会やご家族の協力もある	町のおいで祭りに参加したり、文化祭には利用者の作品を出展している。こども園とも行き来があり、老人会から踊りの慰問がある。日常的に地域と双方向の付き合いが見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と一緒に地域の行事や買い物に出かけることで認知症の方の理解や地域の中で暮らすことの意味等の理解が深まるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議ではグループホームでの日々の生活が分かるようにさわやか便りやご利用者の健康状態等を報告している。参加者の質問やご意見を頂き、現状に満足せずサービスの向上に努めている。	区長・市・民生委員・老人クラブや家族の参加があり毎回多くの意見が出ている。ヒヤリハットなどの事例を報告しており、参加者からは薬の保管方法についての提案があった。議事録を見て職員全員が内容を理解し利用者本位の支援に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員が運営推進会議に参加され、GHの実情は報告している。また日頃から不明な点などは市に連絡し返答をいただきながら協力関係を築いている。	運営推進会議には毎回出席があり情報の提供がある。気になる点やわからないことがあれば直ぐに聞いてアドバイスなどを頂いている。常に市と連絡しあい連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を法人で実施している。必ず職員は出席をし報告書を提出して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ホームの施錠についても記録を残している。	身体拘束をしないケアについて勉強会があり全員参加をしている。日々の自分を振り返り拘束しないよう支援に活かしている。昼間は玄関の施錠はせず、利用者の行動を抑制することはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待防止に取り組んでおり毎月不適切な介護チェック表をつけ、集計しGH会議で報告し、職員同士お互いに注意し合うようにしてある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年4月の全体会議で理事長より権利擁護、守秘義務等について説明がある。またケアマネに関しては法人のCM勉強会で学ぶ機会があり、権利擁護等の研修には積極的に参加をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族が安心して契約が出来る様に分かりやすく丁寧な説明を行っている。特にご家族の不安や疑問には十分な聞き取りを行い、納得の頂けるような対応に努めている。電話での相談等でも都度対応が出来る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回GHで家族会を含めた忘年会をおこなっておりその場でご家族より意見等を頂いている。年一回アンケートにご協力いただいたり、また日頃よりご家族来苑時にはご意見・要望等を伺えるよう努めている。ご利用者にもアンケートを実施している。	面会時に意見や要望などを聞いている。遠方の家族には電話や手紙で聞いている。利用者が何か思っているような雰囲気の際は部屋に入ってゆっくり話を伺う。利用者からはテーブルの席替えについて等の意見があり検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第一月曜日にGH会議を実施、その中で職員同士意見を出し合っている。また施設長、上長による個人面談の場があり自己評価と共に必要書類に要望、意見等記入し面談を行っている。	毎月のグループホーム会議でみんなに要望などを聞いている。日常の業務中でも思っていることがあればその都度言う。職員間のトラブルがあっても上司が聞いて解決を図ったこともある。職員からの意見が出しやすいように心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回実績考課表のチェックと、個人面談をおこなっており、要望等聞く機会を設けている。また個人目標を設定しそれに応じた研修の参加の声かけ等も行い、向上心を持って仕事ができるように努めている。年間を通しリフレッシュ休暇として有給を計画し取得できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはエルダー制度(三ヶ月)を設けており、マンツーマンでの指導が行えている。また内部研修やスキルアップ研修等様々なテーマの勉強会も行われており、職員の力量や経験年数に応じ新人研修、実践者研修など施設外の研修の参加の声掛けも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県のGH・小規模多機能合同の職員研修会が2ヶ月に1回行われており、各施設の発表やグループワークを通じ、情報交換等行っている。また地域ケアネットやホットネット等でも他の事業所と交流が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	馴染みのある会話を通し、ご本人の気持ちや不安等に耳を傾けご本人にとって何が必要なのかくみ取る工夫をしている。難聴の方に対しても筆談やジェスチャー等を用いて可能な限りコミュニケーションをとりご本人の思いを引き出せるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来苑時には気軽に話せる雰囲気づくりに努め、ご家族の思いや不安に耳を傾け受け止めるよう心掛けている。ご本人とご家族の要望が実現できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態や思い、ご家族の不安や要望に配慮し、その時々に応じ会議やカンファレンスで今何が必要なのかを見極め、早期より安心できる環境を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに生活し、支えあう」事を心がけ、食事の準備や片付け、洗濯たたみ等出来ることはして頂いている。個々にあった役割のある生活をして頂いている。ご利用者が進んで手伝って下さり職員も感謝の気持ちを言葉で伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り病院の受診にはご家族に行って頂いている。状態や近況を細目に連絡し遠方の方に対しても電話でや手紙での連絡を行い、信頼関係作りに努めている。散髪をして下さる方や定期的に外食をされるご家族の方、海外から連絡をくださるご家族もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のスーパーへの買い物や、行きつけの美容院に出かけたり地域の行事や祭りに参加し、これまでの人間関係が途切れないよう努めている。またふるさと訪問で実家や畑を見たり、お墓詣りにも行かれている。	近くのスーパーへ買い物に出かけたり、家族がこれまで行き慣れた美容院に連れて行ったりしている。そこで知り合いに会って話をすることもある。ふるさとを訪ねたり墓参りにも時々行く。近所の人が訪ねて来て話をするなど関係が継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の好みや性格等を把握し、席や外出など配慮している。レクリエーションにおいても個別にするもの、大勢で行うものを考えながらご利用者同士の良い関係作りに努めており、レクリエーションや食事の時間になると居室に誘いに行く方もいらっしゃる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に入所された方であれば積極的に声を掛けたりGHのご利用者や面会に行ったりしてなじみの関係を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に一人一人の行動や会話の中から意向や望みをくみ取るように努めご家族とも可能な限り意見を求め希望に添えるように努めている。また、ご利用者のアンケートを実施し自己表現できる機会を作り本人本位の暮らしを支援している。	利用者と生活の話をする中で行きたいところを聞いたり、言葉ではうまく伝えられない人には普段の様子や会話などから思っていることを判断し要望に応えている。劇を見たい、実家のお寺にお参りしたいなどの希望を実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族の方から情報を頂いており、入所前の担当CMやサービス元から聞き取りを行っている。その他ご本人との会話や面会の方からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴等からご利用者の生活リズムを把握し、朝夕のバイタルチェックで身体管理を行い、健康に過ごせるように努めている。またご利用者一人一人が有する力を発揮できるよう役割作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のカンファレンスで課題やニーズについて話し合いを行いケアプランを作成している。ご家族にも意見や要望を聞きケアプランに反映させている。モニタリングは3ヶ月ごとに実施している。	毎月職員みんなで話し合い個別に課題などを見い出している。3ヶ月毎や状態が変わったときはその都度みんなで検討しプランの見直しを行っている。事前に本人家族に意見要望を聞いてプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録表にその日の様子、バイタル、食事、水分摂取量、排泄、入浴等の情報を記入している。ワーカー日誌には職員全体で共有すべき重要な情報を記入し変化等があれば都度職員間で検討し、介護計画の見直しやケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やニーズの変化には可能な限り対応するよう努めている。必要に応じて歯科衛生士、PT、栄養士にも協力を求めながら多職種連携でのサービス提供にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとの行事に参加し地域の方と積極的に交流することによりご利用者の笑顔が増え暮らしに刺激が持っている。地域の文化祭に毎年作品を出品しており地域の方々の評判も良く、ご利用者の喜びに繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者それぞれかかりつけ医が違っているが月1回の受診時や往診時にはバイタル等の情報を主治医に伝えている。ご家族対応時には、Drに宛てた状態やバイタル等を記載した手紙を作成し、適切な医療が受けれるように努めている。	希望するかかりつけ医を利用することができる。往診をしてもらっている人もあり、受診する利用者には家族が行けない時は職員が同行し結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が気付いた情報は都度GH看護師に相談している。また併設の特養看護師にも毎日、状態報告を行うようになっており、情報の共有によって急変時や受診時にすぐに対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	国東市民病院の医療連携室と連絡を取り合い情報の交換を密に行い、早期に退院が出来る様に努めている。また面会時には病棟の看護師から状態を話していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書で看取り指針に沿って対応するようになっている事を説明している。現在までに看取りの方はまだいらっしゃらないがご家族との連絡、意向を聞きながら支援に取り組んでいく。看取りについて法人内で勉強会があり必ず参加するようになっている。	入所時に重度化した場合の対応について家族や本人に説明し同意を得ている。法人内の特別養護老人ホームや地域密着型特養について説明し家族の希望に沿えるよう対応している。終末期に於いては主治医の協力があれば看取りを行えるよう、法人内でも研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日の状態変化は特養の看護師に報告しており、急変時には連絡し応援体制がある。定期的に緊急時の対応について看護師の勉強会があり、必ず参加し実践訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回施設内で避難訓練を行っている。また消防署、地区の消防団との合同防災訓練や消化訓練も定期的に行われている。他緊急連絡網があり通報訓練も実際に行っている。	地域密着型施設内合同で毎月1回避難訓練を行っている。年2回地域の人も入って消火訓練や避難訓練を行う。緊急連絡網もあり、災害時の避難や対応方法を明確にし全員が把握できるようにしている。法人の厨房に10日分の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や好みその時の心身の状態などに配慮し尊厳やプライバシーを損ねない対応を常に心がけ行っている。また、不適切チェック表により各自で振り返りを行っている。	利用者のそばで小声で話しかけるなど、尊厳の念をもって接している。毎月不適切チェック表を各自発表して職員間でお互いのケアを振り返り利用者の尊重確保につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴日やレクリエーションの内容などご本人に尋ね、自己決定できる機会を作っている。食事や入浴等についてもご利用者のアンケートを行い自己の表出に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食はご本人の起床時間にあわせ対応する等、その人らしいペースでの生活が出来るよう支援している。居室で過ごす時間、活動や手伝いをしたい等その人の希望に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴で好みの服を選んで準備されたり、外出時にはお化粧を自らされたり、ご自分でされるのが難しい方には傍で一緒に服を選んだりしている。また一緒に買い物にいき、好みのものを買えるよう支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を可能な限り使用し季節感を実感できるよう努めている。苑内の野菜と一緒に収穫したり、時にはテーブルを囲みギョーザを作ったりお好み焼きを焼いていただいたりと、楽しめる工夫をしている。準備や片付けも自分の役割と、進んでして頂ける。	食事は朝食と昼食は全てGH内で作られており、夕食に関しては汁物とご飯についてはGHで作られている。主菜・副菜は併設の施設より配膳されている。ナスなどの野菜を利用者と一緒に菜園に採りに行ったりテーブルを囲んで食べたり、食事の楽しみを味わえるように工夫がされている。食べたい物があればメニューに反映されたり、誕生会にケーキが出たり楽しみが持てる食事である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量など記録に残し把握できるようにしている。また好き嫌いや摂取量に変化があれば職員間で話し合い工夫をしている。また栄養士に相談しアドバイスをもらい支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア声かけをし、介助が必要な方には付き添いケアを行っている。細目に口腔内の観察を行い異常等があれば歯科衛生士に診てもらっている。また毎月歯科医の往診もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿回数や排便の確認を行い記録に残している。一人ひとりの排泄パターンを把握し間隔があった時はさりげない声かけを行い可能な限り失敗しないよう自立した排泄が維持できるように支援している。	ほとんどの利用者が布パンツで自立に近い。排泄パターンを把握して何気ない支援でトイレの自立に自信が持てるような見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的に食事を中心に便秘改善に必要な食材を使うように努めている。現在玄米食を導入し、飲み物にオリゴ糖を使用したり、乳製品を取り入れている。食事だけでなく運動や、一人ひとりに応じた水分量にも気を付けている。入所して便秘が改善した方もいらっしゃる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には午後からとなっているが、入浴時間で早い方が良いという方や熱めの湯が良いなど希望に沿って順番等配慮している。また入浴剤で気分を変えたり季節のゆず、しょうぶ湯を楽しむ事もある。拒否のある方には無理をせず本人の意思を尊重し清拭等でも対応している。	毎日入浴できる体制になっている。嫌がる時は無理強いせず時間を変えたり、清拭に変更したりする。一人で入りたい人には見守り、1番風呂が好きな人は最初に入浴するなど希望に沿った対応をしている。柚や菖蒲を浮かべて楽しむ事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムがあり日中は夜間の安眠に差し支えない範囲で休息を取って頂いている。また日中は出来るだけ居室に閉じこもらないよう活動の声かけを行い夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋ファイルを作成している。用法、副作用や服薬変更時についてもワーカー日誌に記録し職員間で情報共有が出来る様にしている。ご利用者の状態の変化についても詳細に記録に残すよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を生かし、ご本人の得意な事や意欲を持って活動できるようにサポートしながら日常生活の中に取り入れている。職員も意欲的を持って活動できるように声掛けを行い喜ばれる笑顔を引き出すように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や買い物、季節に応じた散策に出かけ楽しめる姿を見出すよう支援している。ふるさと訪問では地域の方と出会い、盆、正月と自宅へ外泊され家族とのひと時を過ごす方もおられる。今年度はGHご利用者全員を対象とした日帰り旅行の計画をたてており実践できるよう体調管理、体力作りに努め計画を達成できるよう取り組んでいく。	桜・紅葉・かかしなど四季折々の風景を楽しみに出かけている。地域の行事に参加したりスーパーへ買い物に行くなど戸外に出かけている。中津への日帰り旅行を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は職員が行っている。個別の買い物支援ではご自分で支払って頂く事もある。必要物品はご本人と話し家族に了承を得て購入。衣類はご本人の好みやサイズを確認しながら支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話は都度取次ぎ、また往診、受診の結果や日常の様子などGHからご家族に電話を掛けることも多い。ご家族からの贈り物が届いた時はご本人から電話され話される事もある。携帯電話を持たれているご利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースが中央にあり常にご利用者が安全に過ごせるようになっている。床は音が響かないような柔らかい素材にしている。台所は対面式でいつでもご利用者と職員が会話を楽しむことを大切にしている。温度、湿度計も完備し快適な環境づくりに努めている。散歩で摘んだ草花を飾り季節感を取り入れ和めるよう工夫している。	年間を通して空調が管理されており快適に過ごすことができる。ホールにはイスやテーブルが置かれゆっくり談笑できる。大きな食卓で利用者と一緒に誕生会の飾り付けを作るなど和やかに過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、ご利用者同士の性格やテーブル、いすの高さに合わせ食事の席は決めているがその他は自由に過ごされている。パズルをされたり、仲の良い方はテーブルを挟んで会話をされたりと思いいに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやあんま機、自宅で使用していた布団等持ち込まれ快適に過ごされている。お花の好きなご利用者にはご家族が四季折々の花を持ってきて下さることもある。	各部屋にはトイレが設置されている。これまで使い慣れた家具や小物を家から持ち込んで違和感なく過ごしている。写真や花を飾ったりその人らしい部屋作りに努めている様子が伺われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの開閉や照明のスイッチが分かるように表示をし自立に繋がるよう努めている。利用者一人ひとりが出来ること、得意だったことを見出し下肢筋力が弱い方には座位でも安全に活動して頂くように努めている。		